

暮らして

15

技あり

「患者が求めている治療とは何か。1つのことに固執せず、より良い診療を模索したい」。水沢市太田代克也さん(43)の人柄を例えるなら「勇猛精進」。常に新しい治療法を求め、自ら試し、成果が出たものを診療に取り入れている。「人の痛みを癒やす仕事に就きたい」。高校3年の夏、柔道整復師になりたいと思った。以前から整骨院の業務に関心があったが、幼少期の事故で右手の指を失い、指先を使う整復師には不向きと決めつけてい

田代整骨院

た。「指の欠損は資格上、何の問題もない。柔道の師匠の一言が、柔道整復師の道を開いた。高校卒業後、仙台市の赤門鍼灸柔整専門学校へ進み、1982(昭和57)年、国家試験に合格。北上市の整骨院などで修業を積み、88年に開業した。来院者はスポーツ選手、格闘家、高齢者、農業者などさまざま。最初は試行錯誤を繰り返して、手技に固執した時期もあった。が、あるとき悟った。「結果の出ない治療では意味がない」。以来、興味のある療法を片っ端から試し、形にはまら

ない診療を目指した。その結果は、待合室を見れば一目瞭然。諸症状を抱えた老若男女が、切れ目なく訪れる。受け付けには「田々と誇る仁術/代診なき/克励は永遠に/也すけき一生」と記された書が掲げられていて、頭文字を合わせた「田代克也」になる。整復師の道を究めようとする気概が伝わってくる。

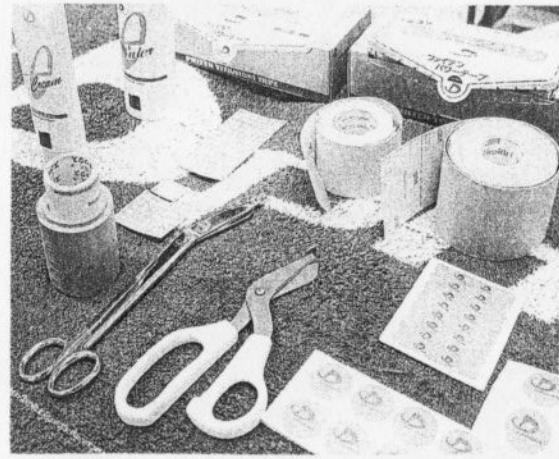
外でできないよ。大きな体を駆使した手技は匠さ。巧みな手さばきで体のゆがみを直し、全身のバランスを整えていく。体重100+超の巨体を相手にするときは、顔に大粒の汗をにじませ、肉弾戦の様相。治療後は患者も田代さんも心なしか、表情が軽やかに見えた。医師との連携強化にも力を入れている。来院者に適切な治療を受けてもらうため、整形外科、脳神経外科の専門医と独自のネットワークを構築した。「治療の上で医師との連携は欠かせない。利益目的で自分のところにとめておくのは、もってのほか。専門医に委ね、早期回復に努めている」と、熱っぽく語る。



イラスト/すがわらよしえ

七つ道具 拝見

別名「第2の筋肉」と呼ばれる、キネシオテーピング(右端)。少なからぬ負担で、関節の動きを補う。せん状のスパイラルテープ(左中央)は、経絡に沿って施術するため、熟練の技を要する。近年はチタンテープ療法にも取り組んでいる。炭化チタンのテープを患部にはることで、自然治癒力が高まるという。



4月から新たな試みとして、耳ツボダイエットの施術を始めた。「来院者のニーズに合った治療法の導入が、最大のサビレスと考えている。産後の体形維持、時間のない人、運動ができない人などにおすすみたい」と、PRも忘れない。柔道の師であり、整復師の道を示してくれた井上英樹さん、相馬厚平さんを敬愛する。「両氏は神業の域に達していた。人望も厚かった。日々精進し、井上先生と相馬先生のように心技を兼ね備えた整復師になりたい。こわもてが、より一層引き締まった。

6月2日から 盛岡で作品展

写真集団いわて

写真集団いわて(小野智保代表)の作品展は6月2日、盛岡市中央通りエスドフール

38)年発足。本紙金曜連載の「季の彩り」でおなじみの佐々木稔さん(江刺市在住)も出品している。小野代表は「表現機材や伝達手法が変わ

っても、私たちの志は結成当時のままです」としている。問い合わせは、小野代表電話019・661・6365へ。

6月3日に

いる。06年3月卒業予定の学生、既卒生、一般教員が

定住を促進するために実施される。滝沢村の岩手産業文化センターアビオを会場に、同日午後1時スタート。9月27日にも開催が予定されている。

県内企業との個別面談をはじめ、セミナーを主

保険などテーマに 消費生活セミナー

6月14日から盛岡で

県民生活センターの消費生活セミナー「ライフプランに

日までの5回。保障環境、地産地消、豊かな生活に密着した取り上げ、快適な人生のための方策を紹介する。希望者は、同センター019・624・250へ。